

令和2年度 事業報告

公益社団法人 鉄道貨物協会

当協会は、鉄道貨物輸送の果たすべき役割を認識し、「本部委員会」による調査研究活動、「エコルールマーク」の普及と拡大、「マンスリーかもつ」や「貨物時刻表」による啓発活動及び地域に根差した支部活動に努め、「国民の生活に不可欠な物資の安定供給」と「地球環境の保全の実現」に寄与すべく活動してまいりました。

今年度の主な活動は、以下の通りです。

1. 本部委員会活動の充実

当協会は、貨物輸送において、国民の生活に不可欠な物資をより安定的に提供できる輸送方法、かつ環境負荷が少ない輸送方法の調査研究を行い、その知識や研究結果を啓発し普及させることで、「安定供給」と「地球環境の保全」に寄与することを目的としております。

鉄道貨物輸送が他の輸送手段と比較して環境の負荷が少なく、安全で安定的に物資の輸送ができることから、本部委員会において鉄道貨物輸送に係わる諸問題について研究し、その成果を報告書や会誌等で公表するなど委員会活動の普及に努め、鉄道貨物輸送の一層の利用促進に資する取組みを行っております。

今年度の本部委員会は、昨年度に引き続き「利用促進委員会」、「輸送品質向上委員会」の2委員会構成とし、活動を推進しております。

委員会審議テーマにつきましては、荷主企業会員皆様の声を反映させるなかで、利用促進委員会2テーマ、輸送品質向上委員会2テーマの計4テーマを選定し委員会活動を進めてまいりました。

(1) 「利用促進委員会」…………… 6開催（書面開催2回含む）

① 審議テーマ

A. 年間テーマ

『鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた物流効率化の推進等に関する調査・研究』

B. サブテーマ

『鉄道コンテナ輸送の利用者から見た今後のコンテナ形式等に対する要望の把握と研究』

② 審議内容

A. 年間テーマ

『鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた物流効率化の推進等に関する調査・研究』

鉄道コンテナ輸送の利用促進策につきましては、本委員会においても様々な視点からたびたび調査・研究を進めてまいりました。今年度においては、トラックドライバー不足の深刻化などを受けた物流コストの高騰、並びに労働時間等に対する規制強化といった課題への対応のため、物流効率化の観点から諸施策について調査・研究を行うこととし審議を進めてまいりました。

<審議経過>

ア. 年間テーマの調査・研究の概要説明（調査目的、調査方法）

イ. 鉄道貨物協会の法人会員である荷主企業・事業所および物流事業者に対するアンケート調査を実施（発送件数：荷主企業316件、回収件数：159件、回収率：50.3%、物流事業者：54件、回収件数：22件、回収率：48.9%）

- ウ. ヒアリング調査の企業選定
- エ. アンケート・ヒアリング調査の内容分析
- オ. 課題・要望の整理
- カ. まとめ・提案

B. サブテーマ

『鉄道コンテナ輸送の利用者から見た今後のコンテナ形式等に対する要望の把握と研究』

JR貨物は、平成30年度より背高コンテナの導入を進めております。その一方で、物流事業者の集配車両や貨物の発送・到着施設などにおいて、利用可能なコンテナ形式に制約があるケースも散見されます。

そこで、荷主企業や物流事業者に対してアンケート調査(必要に応じてヒアリング調査)を実施し、利用者側における、利用したいコンテナ形式や利用できないコンテナ形式などについて把握することにより、鉄道事業者における設備投資計画策定の一助とすることを目的とし審議を進めてまいりました。

<審議経過>

- ア. サブテーマの調査・研究の概要説明(調査目的、調査方法)
- イ. 鉄道貨物協会の法人会員である荷主企業・事業所および物流事業者に対するアンケート調査を実施(発送件数:荷主企業316件、回収件数:159件、回収率:50.3%、物流事業者:54件、回収件数:22件、回収率:48.9%)
- ウ. ヒアリング調査の企業選定
- エ. アンケート・ヒアリング調査の内容分析
- オ. 課題・要望の整理
- カ. まとめ・提案

(2)「輸送品質向上委員会」…………… 6回開催(書面開催2回含む)

① 審議テーマ

A. 年間テーマ

『鉄道コンテナの輸送品質向上に向けた貨物事故防止対策に関する調査研究と提案Ⅱ』

B. サブテーマ

『防振装置搭載鉄道コンテナの実用化に向けた検証調査』

② 審議内容

A. 年間テーマ

『鉄道コンテナの輸送品質向上に向けた貨物事故防止対策に関する調査研究と提案Ⅱ』

令和元年度においては、貨物駅での荷役作業やコンテナ内貨物に対する養生、荷役ホームの修繕状況などに着目し、貨物事故コンテナ取り扱い率など貨物事故に関するデータを基にして、近年著変な変化や特異な傾向などが見られる貨物駅や輸送品目について調査を行い、ヒアリング調査結果の分析等から得られた課題の解決に向けて、種々の提言を行いました。

また、貨物事故コンテナに関する様々なデータを分析したところ、特定の貨物や品目、輸送ルートにおいて貨物事故が発生している事例が多数あることが判明し、このような貨物については、荷役作業や貨物駅のインフラ整備、養生などあらゆる角度から貨物事故発生の原因について検証し、改善を図っていく必要があり、そのためには、貨物事故に関する様々なデータや情報な

どに基づいて、鉄道事業者・荷主企業・利用運送事業者が連携して貨物事故防止に向けた不断の取り組みを行っていくことが重要であるという提言も行いました。しかし、平成29年度から継続して調査してきた荷役作業や貨物駅のインフラ整備と比べ、養生については調査の余地がまだ残されていると考えられます。

そのため、令和2年度においては、コンテナ内貨物に対する養生に焦点を置いた調査を行い、貨物事故防止に資する提案を行うことを調査目的とし審議を進めてまいりました。

<審議経過>

- ア. 年間テーマの調査・研究の概要説明(調査目的、調査方法)
- イ. 年間テーマに基づくヒアリング・書面調査の実施(利用運送事業者8件)
- ウ. ヒアリング・現地調査の内容分析
- エ. 課題・要望の整理
- オ. まとめ・提案

B. サブテーマ

『防振装置搭載鉄道コンテナの実用化に向けた検証調査』

令和元年度までの有効性確認試験で実施した13品種を踏まえ、試験する品種を増やすことや、荷姿などの製品条件などを整理した視点での実輸送試験を望む声が上がりました。

今年度では、13品種と同一でも荷姿が異なる場合や、新しい品種の実施と併せ、例えば製品容積が搭載質量に勝る「容積勝ち」製品における防振効果などを検証し、試作機である本防振コンテナの実用化に向けた検証と量産化への提案を行うことを目的といたしました。

令和2年6・7月に隅田川～札幌夕間で、ダミーカーゴを4t積載、2t積載の2パターンでコンテナ内に振動計測器を設置し、加速度値から防振効果を把握する調査を実施いたしました。

また荷主企業にご協力いただき、10～11月に帯広貨物～静岡貨物間で、12月には越谷タ～姫路貨物間で利用するコンテナ内に振動計測器を設置し、加速度値から防振効果を把握する調査を実施いたしました。

調査・分析結果を審議し、本部委員会報告へまとめてまいります。

なお、令和元年度本部委員会報告書を鉄道貨物輸送の認知度向上と利用促進を図る目的で広く全国の国公立等の図書館及び各都道府県、市町村等1,539箇所へ寄贈いたしました。さらに、現在、平成25年度から令和元年度までの7年間分の本部委員会報告書が当協会ホームページにて閲覧できますので、ご活用下さい。

(3) 研究発表による勉強会の実施(両委員会委員の合同参加企画)

研究発表:「危険品輸送の注意点」について(9月18日)

発表者:(株)日通総合研究所

(4) 現地調査による調査研究(両委員会委員の合同参加企画)

○ 日本運輸倉庫(株)新座支店(10月20日)

説明及び現場見学:日本運輸倉庫(株)新座支店

(5) 物流施設および企業見学(両委員会委員の合同参加企画)

① 物流施設の見学

JR貨物新座貨物ターミナル(10月20日)

説明及び現場見学:JR貨物新座貨物ターミナル

② 企業見学

日本信号(株)久喜事業所(10月20日)

説明及び現場見学:日本信号(株)久喜事業所

2. エコレールマークの普及

今年度は、7月に第39回エコレールマーク運営・審査委員会(書面開催)を、3月に第40回運営・審査委員会を開催し、エコレールマーク取組企業等の認定を行いました。第40回運営・審査委員会の結果、エコレールマークの認定件数は328件となりました。今年度のそのほかの取組みは次の通りです。

(1) 「出張型教室の実施」及び「各種環境展等のイベントへの出展」について

エコレールマークの浸透には次世代を担う児童への地道な啓発活動が大切であり、毎年、各支部と連携し「出張型教室」を開講しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため暫く開催を自粛しておりました。そうした中、例年授業を行っております稲沢市立小正小学校のご協力の下、12月に感染対策を行ったうえでの「出張型教室」を実施しました。

また、一般消費者へのエコレールマーク普及を目的とした各地区開催イベントへの出展についても、10月に協賛企業のスーパーが開催したイベントへの出展ほか1件、計2件を行うに留まりました。

(2) 「エコレールマーク認知度向上の取組み」

エコレールマークが中学、高校の入試問題に登場するようになり数年が経ちました。数年前より中学校社会科の教科書に採用されており、子ども向けの環境マーク図鑑や、自治体の環境教育プログラム、環境イベント、各種コラム、SDGs関連書籍などにおいて、表示マークの普及啓発を目的としてエコレールマークが多数採用されており、その注目度の高さを感じます。

しかし何よりエコレールマークが印字された認定商品が増えることが、消費者のエコレールマークに対する理解を得るのに有効かつ鉄道モーダルシフト推進の効果が期待されます。認定企業の皆様には機会あるごとに商品への表示の働きかけを行っています。

3. 支部活動の活性化と充実

全国各地域の協会活動を推進する役割を担う支部活動には、本部委員会と連携し、それぞれの地域における鉄道貨物輸送の利用促進や輸送品質向上に関わる身近な課題などを検討する「利用促進会議」、会員各社の業務に役立てていただくとともに、相互の情報交換を図る機会としての「企業・物流施設見学会」があります。

また、「エコレールマーク普及活動」、「出張型教室」のほか、一般にも公開を行っている「講演会」、「セミナー」や「貨物駅見学会」など、毎年活発な活動が行われているところですが、今年度は例年に比べ少ない活動状況でした。

[利用促進会議、講演会・セミナー等の開催状況]

(1) 利用促進会議

- | | |
|-------------------------|-------|
| ① 名古屋・港地区合同利用促進会議(11/5) | 名古屋支部 |
| ② 周南地区利用促進会議(11/16) | 広島支部 |
| ③ 高岡地区部会利用促進会議(11/18) | 北陸支部 |
| ④ 岐阜・西濃地区利用促進会議(12/3) | 名古屋支部 |
| ⑤ 三重地区利用促進会議(12/7) | 名古屋支部 |
| ⑥ 豊橋地区利用促進会議(12/8) | 名古屋支部 |
| ⑦ 富山地区部会利用促進会議(12/10) | 北陸支部 |
| ⑧ 宇部地区利用促進会議(12/17) | 広島支部 |
| ⑨ 金沢地区部会利用促進会議(1/22) | 北陸支部 |
| ⑩ 利用促進会議(2/15) | 四国支部 |

(2) 講演会・セミナー

- 7/9 岡山支部 通常総会
演題:ハンセン病からコロナを考える
講師:国立療養所邑久光明園 園長 青木 美憲 氏
- 10/19 名古屋支部 鉄道コンテナ基礎知識講習会
講師1:国土交通省中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田 丈夫 氏
講師2:JR貨物東海支社 営業部主席 野村 雅也 氏
講師3:JR貨物東海支社 名古屋貨物ターミナル駅長 齋藤 真志 氏
講師4:JR貨物東海支社 運輸車両部 朝倉 佑也 氏
講師5:JR貨物東海支社 運輸車両部 伊藤 裕之 氏
- 11/5 名古屋支部 名古屋・港地区合同利用促進会議
演題:モーダルシフトの推進について
講師:国土交通省中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田 丈夫 氏
- 12/3 名古屋支部 岐阜・西濃地区利用促進会議
演題:モーダルシフトの推進について
講師:国土交通省中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田 丈夫 氏
- 12/7 名古屋支部 三重地区利用促進会議
演題:モーダルシフトの推進について
講師:国土交通省中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田 丈夫 氏
- 12/8 名古屋支部 豊橋地区利用促進会議
演題:モーダルシフトの推進について
講師:国土交通省中部運輸局 交通政策部 環境・物流課長 藪田 丈夫 氏
- 2/9 東北支部 第2回幹事会
動画セミナー「東日本大震災…あの日から10年」
- 2/15 四国支部 利用促進会議
演題:四国新幹線の実現に向けた取り組みについて
講師:四国新幹線促進期成会会長 千葉 昭 氏

(3) エコレールマークの普及、鉄道貨物輸送の認知度向上に向けた取組み

- | | |
|--|-------|
| ① 鉄道コンテナ見学会(郡山貨物ターミナル駅9/18) | 東北支部 |
| ② 八戸公園鉄道模型展(八戸公園 三八五こども館9/26・27) | 東北支部 |
| ③ 鉄道コンテナ基礎知識講習会(JR貨物東海支社10/19) | 名古屋支部 |
| ④ 鉄道コンテナ見学会(仙台貨物ターミナル駅10/30) | 東北支部 |
| ⑤ ことでん電車まつり(ことでん瓦町FLAG11/3) | 四国支部 |
| ⑥ エコレールマーク出張型教室(稲沢市立小正小学校12/15) | 名古屋支部 |
| ⑦ 四日市駅開業130周年イベント(四日市駅12/25) | 名古屋支部 |
| ⑧ 鉄道コンテナ基礎知識講習会(JR貨物静岡支店(Web開催)2/17) | 静岡支部 |
| ⑨ すいた環境教育フェスタ2021(吹田市(web開催)) | 近畿支部 |
| ⑩ 「仮設のチカラ」×「運ぶチカラ」(うめきた外庭SQUARE 3/17~19) | 近畿支部 |

4. 「マンスリーかもつ」(JR貨物との共同編集誌)の発行

協会活動の報告と鉄道貨物輸送の認知度向上に向けて「マンスリーかもつ」を毎月発行しています。今後も鉄道貨物輸送に関するタイムリーな情報を提供してまいります。

(1) 協会事業等の報告

- ・ 令和2年度事業計画と令和元年度事業報告
- ・ 理事会、定時社員総会、支部通常総会、常任委員会等の開催
- ・ 政府等関係機関への要望書

(2) 本部委員会の報告及び本部・支部の活動報告

標記については主に以下の活動を紹介いたしました。

- ・ 利用促進委員会及び輸送品質向上委員会の審議内容
- ・ 各支部利用促進会議、講演会・セミナー、企業物流施設見学会の実施状況
- ・ 各種イベントへの出展、出張型教室の実施状況
- ・ エコレールマーク認定取得企業に対する認定証の贈呈
- ・ 創立70周年記念記事の掲載

(3) 会員企業の紹介

標記については以下の会員企業の紹介を実施いたしました。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 4月 株式会社日通総合研究所 | 10月 株式会社アゲオ |
| 5月 日通トランスポート株式会社 | 11月 一般社団法人日本物流団体連合会 |
| 6月 日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会 | 12月 株式会社東京液体化成品センター |
| 7月 日通・NPロジスティクス株式会社 | 1月 日本自動車ターミナル株式会社 |
| 8月 三菱ロジスネクスト株式会社 | 2月 日本車輛製造株式会社 |
| 9月 株式会社総合車両製作所 | 3月 日通不動産株式会社 |

(4) その他

- ・ 支部自慢、協会ニュース、リフレッシュクイズ等

5. 貨物時刻表の発行

貨物時刻表には貨物列車運転時刻等の掲載はもとより、公益法人として、鉄道貨物輸送の利便性を広く国民の皆様にご提供いただく役割があります。その趣旨から2020貨物時刻表においても、巻頭カラー特集として鉄道貨物輸送の仕組み、貨物駅の紹介、専用線を使った鉄道貨物輸送等を紹介するだけでなく、日々の暮らしの中に鉄道貨物輸送がどのように関わっているのか説明し、鉄道貨物輸送の歴史や海外の鉄道貨物輸送についても紹介するなど、鉄道ファンだけでなく一般の方々も楽しんでいただける作りとしました。2020貨物時刻表は、おかげ様で多くのお客様から「分かりやすく、面白い。」というお話をいただき、新聞やテレビ番組にも取り上げられました。

この他、取扱い書店における「歴代貨物時刻表 表紙パネル展示」を開催するなど、認知度向上にも努めています。

6. 会員等増加運動の推進

「会員のご紹介制度」等の取組みを行い会員確保に努めていますが、会員数は法人、個人とも年度初から減少し、全体で65件減の3,032件となっています。あらためて当協会の活動について広く周知し、会員確保に努めてまいります。なお、3月31日現在の会員等数の推移は8ページに示すとおりです。

7. 本部表彰

協会事業の発展に功績のあった方並びに鉄道貨物輸送に貢献された方などを対象として、今年度は、協会事業協力者表彰(9名)と鉄道貨物輸送功労者表彰(16名)の本部表彰を行っております。

8. 本部主催会議

(1) 第9回常任委員会	4/9(変更)	書面開催
(2) 第32回理事会	4/23(変更)	書面開催
(3) 令和2年度定時社員総会	6/5(5/25を延期して開催)	如水会館
(4) 第39回エコレールマーク運営・審査委員会	7/29	書面審査
(5) 第33回理事会	11/16	如水会館
(6) 本部委員会		
① 利用促進委員会	7/15、9/16、10/20、11/18、 1/20(書面)、2/17(書面)	通運会館
② 輸送品質向上委員会	7/17、9/18、10/22、11/20、 1/22(書面)、2/18(書面)	通運会館
(7) 第40回エコレールマーク運営・審査委員会	3/3	リモート
(8) 令和2年度事務局長会議	3/8	如水会館
(9) 第34回理事会	3月中旬	書面開催
(10) 会誌「マンスリーかもつ」編集委員会	毎月1回	書面開催